大森のまちの移り変わり

ＪＲ大森駅山王口

現在の大森駅山王口

我が国で初めての鉄道が新橋～横浜間を走ったのは、明治５年である。大森駅は、その４年後に開設された。その後大正12年に改築された。昭和59年に近代的な駅ビルの完成と共に現在に至る。

昭和42年当時の大森駅山王口。当時の駅屋根になつかしい思いがつのる。

ＪＲ大森駅東口

現在の大森駅東口

昭和60年大森駅前広場改良工事完成後の大森駅東口である。
京浜急行路線バスの拠点として品川区、大田区湾岸部への交通アクセスとして多くの乗降客が利用している。いすず本社も再開発され、アサヒビール大森工場跡地も再開発予定であり、今後、駅前も大きく変貌していくであろう。

昭和42年当時の大森駅である。当時、まだバスロータリーもなく東口からの交通手段はタクシーが主だった。

蒲田のまちの移り変わり

蒲田駅西口付近

蒲田駅は旧蒲田村の村民運動によって明治37年(1904)4月に開業した。
当時は、利用者も少なく乗降客もまばらだった。又当時の乗降口は東口のみであったが、大正11年(1922)に西口駅が開設された。
現在はＪＲ蒲田駅、東急池上線、東急多摩川線が乗り入れ、バス路線の拠点になっている。2001年度の１日平均の乗降客数は128,546人でJR東日本の駅で22番目の順位になっています。

昭和36年10月頃の蒲田駅西口風景

昭和43年4月5日蒲田駅西口駅前と東急ビル建設

西口駅前トイレの景観プロデュース

公衆便所のキタナイというイメージを根本的に変えるべく、外壁アート、明るい空間等を強調提案して創り出されました。

蒲田駅東口付近

◀現在の蒲田駅東口

ＪＲ蒲田駅は開業当時乗降口は東口のみであった。
梅屋敷や蒲田菖蒲園などの近くにあり、又旧東海道、六郷、羽田方面にも便利であり、交通の要所であった。大正９年(1920)に松竹がキネマ部撮影所を設けた。これに伴い東口商店街は急速に発展し今日に至っている。

◀日興証券4階より写す。昭和36年3月11日の蒲田東口全景

◀昭和7年ごろの東口駅舎